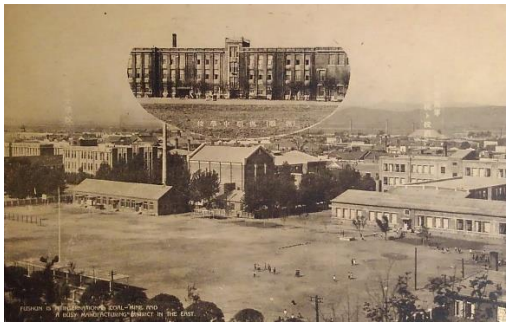
戦前期外地の文化機関を中心とした絵葉書一覧　Ⅶ. 撫順

岡村敬二編

撫順は、奉天（瀋陽）の東方近郊に位置し、炭鉱で有名な都市である。日露戦争後に、満鉄および附属地が設定され、撫順炭鉱も、満鉄の経営となった。露天掘りも可能な大規模の炭鉱で、満鉄経営を支える主要な会社であった。鞍山の鉄鉱石とともに、のちに昭和製鋼所となる鞍山製鉄所を設立した。なお満鉄附属地の諸都市は、昭和 12 年 12 月の治外法権撤廃により満洲国に帰属したが、撫順も同様である。

撫順 1「撫順高等女学校」。東七條に移転してモダンな校舎となり撫順東七条高等女学校となった。

撫順 2「（撫順）内容外観整備せる撫順中学校」。撫順駅の西に撫順神社・満鉄病院・炭鉱事務所・中学校と続いて建ち並んでいた。



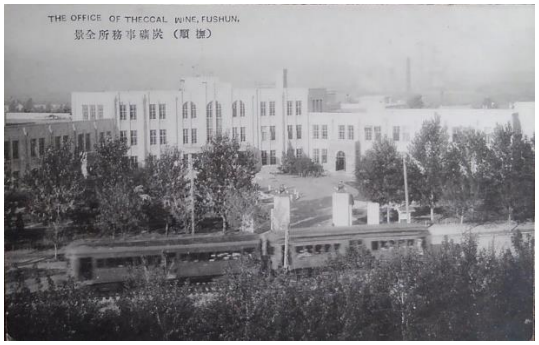
撫順 3「撫順尋常高等小学校ト校庭、（撫順）撫順中学校」。これら施設は渾河南側に開かれた区域にある。

撫順 4「撫順小学校校舍全景」。校舍一階端に「宣衛教室」と書き込みがある。

撫順 5「撫順公会堂」

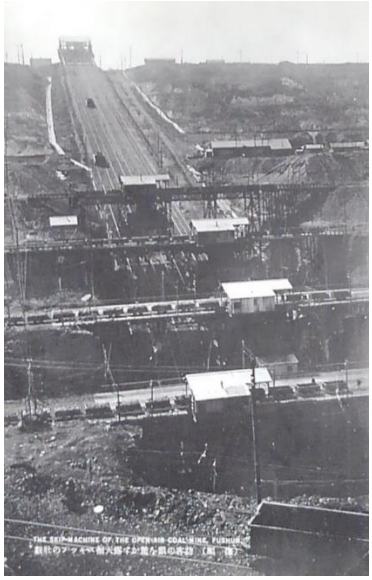
撫順 6「撫順市庁舎」

撫順 7「撫順第三発電所の偉観」



撫順 8「(撫順) 炭鉱事務所」。炭鉱が渾河南側にあり、川の南に炭鉱都市撫順が開けた。

撫順 9「撫順炭鉱満鉄病院」。撫順神社と炭鉱事務所の間にある。神社は満鉄沿線の各都市に創設されたが、この大きな満鉄病院の存在も、満鉄経営の炭鉱都市撫順の特徴をよく示していると思われる。



撫順 10「(撫順) 訪客の眼を驚かす露天掘スキップの壮観」

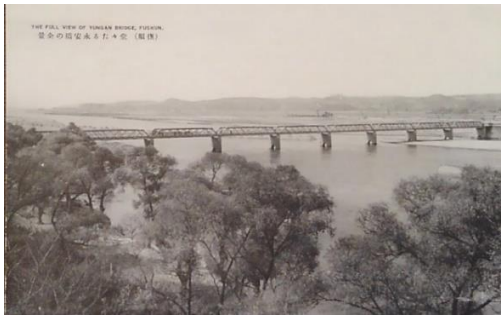
n

撫順 11「（撫順）西五條通」。南北の中央大街から西に西一番町・西二番町、北から西一條通・西二條通。

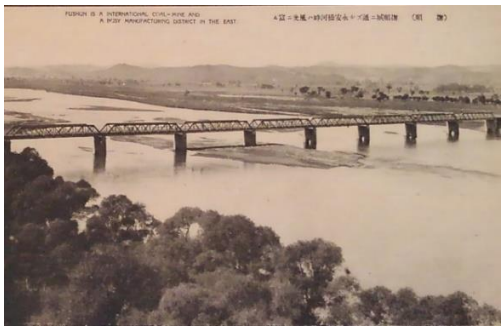
撫順 12「（撫順）洋館櫛比せる四條通の盛観」

撫順 13「撫順城内 城は四支里四方で城壁に高さ三丈五尺、新市街の発展につれ年々寂れてゐる」。「昭和 7 年 8 月 29 日」のスタンプ。撫順城内は渾河の北側に位置していたが、炭鉱開発と共に河の南側に新市街が建設されて発展していったことから、いわゆる満人街が廃れていったというわけである。

撫順 14「撫順市街　科学都市撫順は躍進発展の一路を辿り實に人口廿八萬を超ゆる大都市でその内日本人は實に五萬に及ぶ。」「昭和 7 年 8 月 29 日」のスタンプ。



撫順 15「（撫順）堂々たる永安橋の全景」。渾河北側にあった城内と炭鉱事務所などの施設のある河南の新市街を架橋する永安橋である。

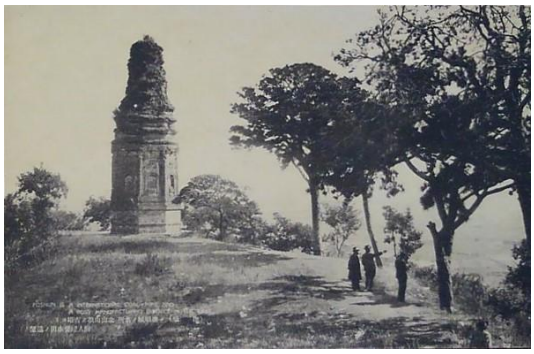


撫順 16「（撫順）撫順城ニ通ズル永安橋河畔ハ風光ニ富ム」

撫順 17「（撫順）永安橋」

撫順 18「撫順神社ノ社頭 右社務所」。中央通を挟んで炭鉱事務所・満鉄病院がありその東に神社があった。

撫順 19「（撫順）異彩ヲ放ツ撫順西公園ノ風光 撫順ノ表忠碑」。表忠碑は市街東部の誉ケ丘にある。



撫順 20「（撫順）撫順城ノ名所 北山山頂古塔ヨリ鮮人経営水田ノ遠望」